

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800989		
法人名	医療法人社団 藤岡会		
事業所名	グループホーム 日々輝		
所在地	熊本県上益城郡御船町181-1		
自己評価作成日	令和4年10月27日	評価結果市町村報告日	令和5年 2月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和4年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、笑顔・やさしさ・思いやりを理念に、穏やかに安らぎを感じ生活に意欲を持っていただく様努めております。
一人ひとりに合った個別ケアを家庭的な雰囲気の中で行うことで、自宅で過ごしているような感覚で生活することができるようお手伝いさせてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で暮らしてきた入居者は、日々過ごす時間の中で、理念にある「笑顔」「やさしさ」「思いやり」を職員と共に感じる様があります。近年入居者の高齢化や体調の変化で車椅子生活の方も増えたようですが、以前と変わらず職員と一緒に食事を作る姿も見られました。そのような状況でのコロナ禍で気軽な外出もままならない中、散歩を日課にする入居者もおられ、できる範囲で、入居者の変わらない生活を支える事業所の様子が聞かれました。一時期は職員体制も厳しい状況もあったようですが、三食手作りの食事提供も継続されており、「生活」が送られている様子が感じられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスについて事業所の理念に基づき、年間の活動方針を作成している。年間の活動方針をホーム内で目に触れる場所に掲示することにより、職員間で理念を共有し、実践につなげている。	「笑顔」「やさしさ」「思いやり」に包まれ、住み慣れた町で入居者は穏やかな生活を送っている。介護職員だけでなく入居者の生活に関わる全ての職員にも事業所の思いや理念を伝え、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事などには参加できていないが、利用者の方と買い物などへ行き、積極的に外部との交流も図っている。	コロナ禍で以前のような交流は難しい状況であるが、数名は近所へ買い物へ出向いたり、散歩を日課としている。回数は減ったがどんどや等地域行事が継続しており、地域住民として職員の参加する際には入居者も連れて行っている。	従来より、地域や近隣店舗とは運営推進会議に参加して頂く、地域等の行事には事業所からも協力する、と相互の良好な関係が伺えています。コロナ禍終息の際には是非以前のような入居者と地域の交流が再開されることを願います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常業務時間中や事業所会議の中で、よりよい認知症介護の在り方について話し合い、事業所主催の行事を地域に対して開かれた形で開催することにより認知症に対する理解や支援方法について情報共有する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、その都度利用者の状況やケアについての取り組み、認知症についての事例発表や勉強会を行い、一般の方からの意見も取り入れサービスの質の向上に努めている。	コロナ禍ではあるが、できるだけ集まって会議開催ができるよう検討し、リスクレベルにより書面報告も取り入れた。書面報告の際は地域役員等個別に訪問し、事業所の報告を行うと共に地域との情報交換・交流を継続している。	運営推進会議を活かした地域との情報交換や交流は、コロナ禍にも拘わらず、地域行事への職員の協力、少人数ではありますが入居者の関わりが継続されました。今後の継続に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、主任を中心に、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて、町と密接に忌憚なく意見を交わしている。	町役場とは、日頃の報告・連絡・相談等により連携を図っている。運営推進会議等で事業所の取り組みや入居者の様子等も報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成、閲覧に供し、身体拘束廃止会議を隔月開催し、身体拘束のみならず不適切なケアを予防するよう努めている。	運営推進会議と共に身体拘束廃止会議を開催している。現在は検討事項等は見られないが、事例が発生した際には随時対応を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等を事業所の会議にて報告し、高齢者虐待防止関連法について研修内容を共有することで、虐待防止に取り組んでいる。		

グループホーム 日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で、外部研修には参加できない状況ではあるが、自主学習や内部研修で学習する機会を多く取り入れていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様が不安な疑問点を尋ねやすい雰囲気を作り、十分な説明を行い、納得の上で契約に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでも要望などを聞けるよう努めている。家族会などにおいて話し合ったり、ご家族来訪時には情報交換を行い、信頼関係の構築に努めている。	従来より家族の面会も多く見られるが、コロナ禍でもあり面会制限を余儀なくされた時期もあった。出来るだけ家族の来訪は受入れ、職員からも情報提供等を行い、意見・要望を出しやすい信頼関係作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望・意見などは受け止め、利用者への思いなどを聞き、個々の役割を持つことで仕事への意欲向上を図っている。人事考課を行い、職員に応じたポジションを用意している。	職員の日々の様子によって管理者から声を掛け、随時意見等を聞く機会を設けている。管理者は職員に対し「何でも話せる」関係作りを行っている。随時行う数人のミーティングで出た意見や提案は記録を残し、職員間で共有している。内容によっては管理者より代表へ報告・相談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談をし、職員の考え方、利用者への思いなどを聞き、個々の役割を持つことで仕事への意欲向上を図っている。人事考課を行い、職員に応じたポジションを用意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人勉強会等や、外部研修などにできる限り多くのスタッフが学習できる環境づくりを行っている。働きながら助言しやすい環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会等、また研修会等、他の事業所の職員の方と交流し、情報交換など、定期的に参加し、サービス介の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず数回訪問させていただき、本人の思いや、不安などを受け止め、安心できるように、なじみの関係になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がいつでも相談できるような環境作り、関係作りに努めている。スタッフ全員対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族と話し合い「その時」まず必要としている支援を見極め提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おひとりおひとりに対しての言葉かけも職員で統一し、ともに支え合う家族のような関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と生活をご家族様に伝え、時には相談し、共に利用者本人を支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方を通し知人やなじみの方も面会に来ていただいている。また利用者本人の要望でなじみの場所なじみの人に会いたい時は外出支援を行っている。	家族や知人等の来訪もよく見られる。コロナ禍の現在、リスクレベルにより交流が難しい状況であるが、通院等を利用し、できるだけ家族と共に過ごす時間も大切に、通い慣れた医療機関での受診等、これまでの生活や関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を十分に把握し、孤立させないようにスタッフが間に入り話題を提供している。お互いに支えあうような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じ電話相談や、支援をできるような関係性を保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、意向を把握し努めている。困難な場合は表情や言動などから思いや意向など近づけるよう本人本位で検討している。	近年思いや意向を表すことのできる入居者も減ってきているが、職員の日頃の寄り添いや傾聴、入居者の表情等でそれぞれの思いや意向を把握している。入居者のその時の気分等で寄り添いも難しい時には言葉かけにも配慮し、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方、生活環境を把握して、なじみの暮らしに近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人の心身状態を把握し、個人のペースに合わせた支援を行っている。有する力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察、思いや意見を聞き、職員間で報告、ご利用者本人、ご家族と話し合い、本人にとってより良いケアを見出し介護計画を作成しモニタリングを行っている。	日頃の入居者の様子や家族の意向も確認し担当者を中心にモニタリング、介護計画は年2回の見直しを基本としている。コロナ禍であるものの、出来るだけ家族にも入居者の様子を確認いただき意見を得ている。状態変化時や通院後の情報も家族と共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に、食事水分排泄など日々の身体状態を記入している。職員全員情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人はご家族の状況に合わせて必要な時は病院受診、買い物支援を行っている。柔軟性をもって個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より、情報をいただきながら、安全で豊かな暮らし、生きがいをもっていただけるように努め支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療、定期受診、夜間時の急変にも対応していただいている。ご家族に情報提供を行いご利用者、ご家族様の意向を第一に考え支援している。訪問歯科にも連携をとり往診に来てもらっている。	現在、全ての入居者は協力医をかかりつけ医としている。専門医受診は近隣であれば職員、遠方は家族による通院としている。症状によっては診察に家族も同行していただく。訪問歯科の往診も受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の状態などの情報提供を行っている。看護職も医療との連携を取り適切な医療ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療に専念できるように情報提供を行い、ご家族、病院関係者と情報交換し、できるだけ早期に退院できまよう関係づくりに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時など随時家族に情報提供を行い、意向を確認している。スタッフが入居者に対して不安な事やケアなど意見交換、ミーティングを行っている。看取り時など重要事項説明書に記載し、同意を得ている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の対応等の説明を行っている。実際にその時を迎えた際には家族の意向を都度確認し、希望される場合は協力医を中心とした体制のもと支援を行っている。体調変化等には都度家族と関係機関で話し合いを重ね支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、感染症に対する事故発生に備え、マニュアル等の確認を行い救急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年1回防災避難訓練を地域の協力体制にて依頼し訓練している。 非常災害時マニュアル、BCP対策を作成し、批判訓練場所や避難経路を共有し全職員が身につけている。	年2回の防災避難訓練は入居者も参加している。水害・台風等の手順も定められており、車の避難、関連事業所への避難等訓練・話し合いを重ねている。現在BCP対策の完成に向け取り組んでいるところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができていますが職員個々の関わりをミーティング等にて話し合い助言しあっている。	入居者一人ひとりの尊重とプライバシーについて管理者から職員へ会議等を利用し伝えられている。特に入浴や排泄時等の声掛け、入居者不穏時の声掛け方法等、具体的に話す機会を持っている。	現在気になる事例はないようです。入居者の年齢層や状態も幅広く、それぞれへの対応も個別化している状況が窺えました。会議や研修等で継続した理解や共有の機会作りに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で気兼ねせず希望や想いを発言できるよう働きかけ自己決定ができるよう努めている。意見表示困難な方には行動表情の観察を行い、その方に合わせた決定の場面づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの体調、気分を把握し、本人の希望に沿った支援を心がけている。起床、就寝時や食事の時間を特に定めず、起床就寝されない場合も無理強いをしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の個性を大切にし、本人の好む服装やおしゃれができるよう支援している。難しい方には、おしゃれができるよう清潔に不快なきよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好など日常会話より個々の好みを把握し、可能な限り一緒に共同作業にて行っている。共同作業が困難な利用者にはご飯が炊ける匂い、食材をまな板で切る音を食事に対しての楽しみを持っていただいている。	調理担当の職員も入居者への関わりを持ち、好みや身体状況を把握していることから、その日の様子等で臨機応変に対応できる。入居者は食事作りの場面から関わる機会を持ち、香りや音等でも食事を生活の一部とした支援を継続している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量、栄養バランス、水分量を把握し、1日を通じて確保し、体調管理に努めている、季節感のある食材を使った調理を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状況に合わせて声かけ一部介助を行っている、難しい方には職員が介助を行っている。治療が必要な方は訪問診療も行っている。		

グループホーム 日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所を把握しやすいよう表示し、排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し、その方に合わせた声かけをし、誘導等を行っている。	できるだけトイレでの排泄が継続するよう支援している。年齢や体調等、それぞれの状況により、夜間はゆっくり休んでいただくことも考慮し、オムツ等の利用もある。特に夜間はトイレ利用で何度も離床される際は、転倒に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表を利用し、食事や水分補給の時間を設け、水分不足にも気を付け、日頃より体操等にも努め、それでも便秘になる方は、医師の指示にて下剤を使用し調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の体調を考慮し、声かけを行い、利用者の希望を確認している。 入浴を楽しみにしている方が多くいらっしゃる。	入居者の体調や意向も確認しながら週3回を基本とした入浴を支援している。高齢の入居者や身体状況により二人介助も行う。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体調を観察し、夜間にゆっくり休めるよう無理なく活動を促し、対応を行っている。 夜間眠れない方がいらしたら、職員がdける限り対応し、安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等のファイルを作成し、利用者一人ひとりの作用・副作用・用法・容量が職員全員把握できるようにしている。誤薬防止のため、薬入れ袋の工夫を行い、名前の確認と、服用したことの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や手伝いと役割を見つけ、力を発揮しやすい環境作りをしている。外出や外気浴にて気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出られる時は、職員同行で施設周辺の散歩の対応を行っている。利用者本人の希望は概ね家族の方が対応して下さり、外出支援もしていただいている。	現在は高齢化や身体状況によりその日の希望による気軽な外出が難しくなってきたが、できるだけ近隣の散歩や隣接する店舗での買い物等、それぞれに合った支援を行っている。通院も外気を感じる機会となっており、専門医への通院等、家族も協力的である。	

グループホーム 日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりのお金を管理簿を作成し、事業所で管理を行っている。買い物は新型コロナウイルス感染防止のため、本人の希望する商品を代わりに職員や家族の方にて購入し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日中利用者の家族に対し自由にかけただけのようにしている。 手紙や年賀状が届いた方はお渡ししている。希望があれば返事の手紙を書いていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に、季節の飾りつけを作成、転倒リスクがある障害物を排除し休憩用の椅子を多数準備し自由に移動ができる空間づくりを行っている。直射日光が利用者にならないよう対応し、あらゆる刺激の排除に努めている。	日中入居者が過ごす時間も多いいビングには、食卓の他にも畳スペースやソファ等、思い思いに過ごすことのできる場所がある。近年車椅子利用も多くなり、特に安全に配慮した動線確保を行っている。室温・陽射し等、穏やかな空間となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内での移動をできるだけ制限しないよう家具を配置し、その時の利用者の状況に応じてレイアウトを変更している。また、くつろげるスペースを和室、談話室、ホール、廊下にソファを設置し一人でも多人数でも過ごせる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者宅より本人様の写真や家族の方の写真をお借りして居室内の壁に飾ったり、利用者様が使用されていた家具を配置し、なじみのものに囲まれ居心地よく過ごせるように対応している。	押入れ付きの居室には空気清浄機も完備されている。家族の協力も見られ、使い慣れた生活用品や写真が持ち込まれ、居心地よく生活できるスペースとなっている。車椅子や転倒リスクにも配慮し、安心して過ごすことのできるスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの趣味嗜好に応じてできる役割を見出し力を発揮していただけるようミーティング等で話し合い自立した生活が送れるように工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム日々輝

作成日 令和5年 1月29日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		定期的に運営推進会議を開催することができず、書面にて情報提供を行っているが、地域からの情報提供が不十分である。	感染対策を十分に行い、定期的な運営推進会議を開催できる。	感染情報の把握、開催できない状況でも詳細な情報を記載した資料作成を行い、開催時には十分な時間を取り、情報交換を行っている。	6 カ月 ～ 1 2 カ月
2		職員全員の会議は頻度が少なく、現在の状況や介護方法などつたわりにくい。身体拘束については、職員全員で意識を高める。	定期的にカンファレンスや身体拘束についての勉強会を行う。	一人ひとりの支援状況を見直し、ケアプランに沿ったケアができているか確認する。スタッフ全員が身体拘束の資料を閲覧する。	3 カ月 ～ 6 カ月
3		コロナ禍であり、外出支援ができていない。	コロナ禍でもできる外出支援を職員で検討し実施する。	少人数でまずは短時間でも外出し、利用者様の気分転換を図る。	3 カ月 ～ 6 カ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。